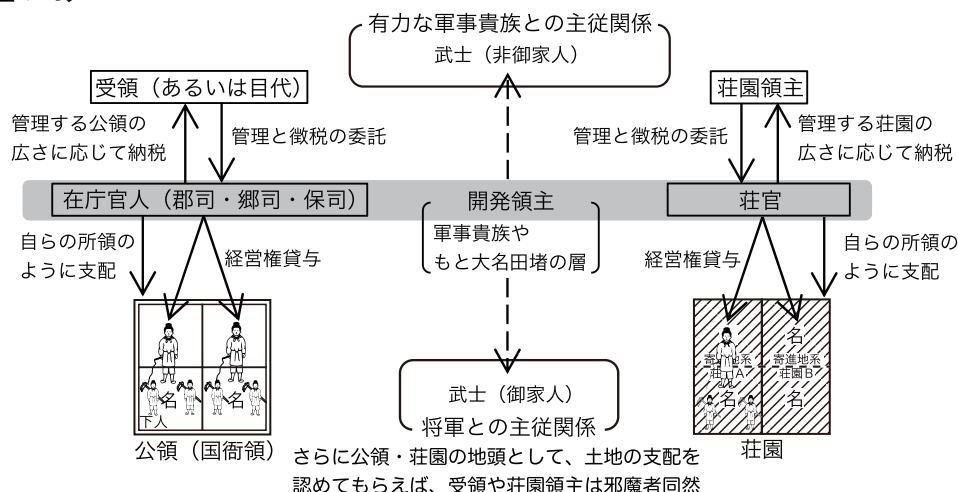


武士社会

開発領主は開墾地を荘園領主に寄進し、国司からの重税を避けた。そして、自らは荘官として田地管理に努め、次第に管理する田地を自らの所領のように扱っていった。一方で、彼らは有力な軍事貴族と主従関係を結び、田地をめぐる争いを有利に運ぼうとした。このような動きから、武士と呼ばれる者が登場した。

○ 武士社会の概観

● 武士の位置づけ



● 武士の住まい

武士は先祖伝来の所領の要地に⁽¹⁾ _____ を構え、
周囲には灌漑・防御用の堀や塀をめぐらせた。

（１）の建つ屋敷地や周辺の田地は税が免除された。

→このような（１）周辺の免税の田地を⁽²⁾ _____ と呼ぶ。

⇒武士は、これら田地を自身の隷属民⁽³⁾ _____ や、
所領内の農民に耕作させた。

◇（２）…別称は門田・正作など



図1 武士の館周辺の地形図（埼玉県飯能市中山館復元図）

● 一部の武士の増長

一部の武士は、身分（御家人）・職権（地頭）を盾に取り、現地への支配力を強めて、
次第に荘園領主への納税を怠るようになった。

⇒荘園領主は、幕府の判決（裁許）や武士との和解（和与）を経て、次の関係を結んだ。

①⁽⁴⁾ _____ …一定額の年貢納入を条件に、地頭に荘園のいっさいの管理権を委任

②⁽⁵⁾ _____ …荘園領主と地頭が荘園を分割し、以降それぞれが領有・管理

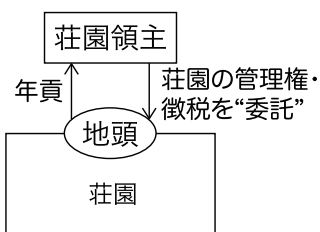


図2 従来の関係

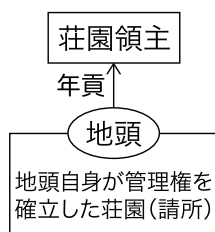


図3 地頭請所

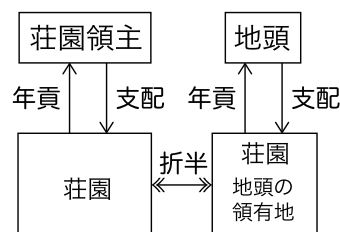


図4 下地中分

●武士の血縁

平安時代以降、一族のことを⁽⁶⁾ _____ とも呼び、
 (6) を統率する代表者の地位を⁽⁷⁾ _____ (_____) と呼んだ。



図5は伊勢平氏の系図である。

→(7) は実線で結ばれた血縁で継承され、この血縁を宗家（本家）と呼ぶ。

→一方、(7) を継承しなかった破線で結ばれた血縁を分家と呼び、

その血縁の者たちを⁽⁸⁾ _____ と呼んだ。

→(8) は様々な場面で(7)に従った。

〔戦時…(7)が指揮官となり、一門は団結して戦闘
 〔平時…(7)が先祖の祭りや一門の^{うじがみ}氏神の^{さいし}祭祀を執行

⇒血縁の関係を重視した武士社会のこの結合形態を⁽⁹⁾ _____ と呼ぶ。

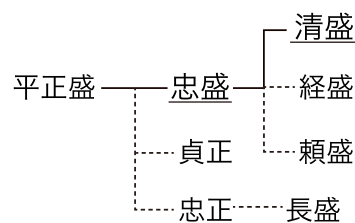


図5 伊勢平氏の系図

●武士の財産相続

鎌倉時代前・中期、親の財産（土地）は図6のように、
 全ての子女に分配される⁽¹⁰⁾ _____ 相続が原則であった。

◇当時女性の地位は高く、男性と同じく財産の分配にあずかり、
 御家人や地頭になる例も存在



(10) 相続の繰り返しは土地を細分化し、武士の窮乏の原因となった。

→相続人の死後に惣領に返すことを約束した土地^{いちごぶん}一期分も登場し、

女性は相続を減らされたり一期分とされたりし、その地位が低下した。

⇒鎌倉時代後期、次期惣領が財産全てを相続する⁽¹¹⁾ _____ 相続が、
 一般的となり、次第に惣領制は解体した。

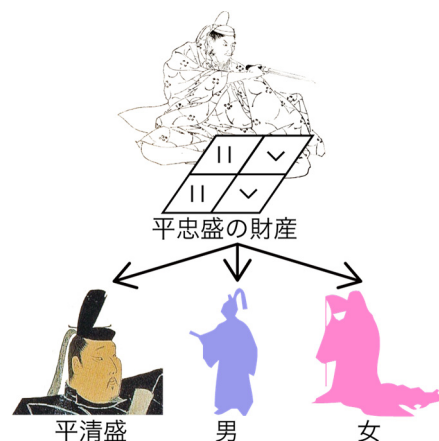


図6 平忠盛の財産の分配

●武芸と武勇

武士は地位を守るために武芸を習得する必要があった。

→当時の戦いでは、馬が決定的な役割を果たした。

⇒馬上の弓術を練る武芸が重要視され、下図の武芸3つを^{きしやみつもの}騎射三物と総称する。

◇『^{おぶすまさぶろうえまき}男衾三郎絵巻』は、当時の武芸や武士の暮らしを詳細に記録



武士には「^{つわもの}兵の道」「弓馬の道」と呼ばれる道徳があり、

武勇、主人への献身、一門の^{ほま}誉れなどが重視され、後の武士道の起源となった。



(13)

(出典『鳥獣戯画』)



(12)

(出典『男衾三郎絵巻』)



(14)

(出典『男衾三郎絵巻』)